

被覆肥料の被膜殻流出防止対策実証ほの結果概要

1 結果の概要

- ・ 早生品種では3か年ともに収量指数100以上であり、代替肥料でも同等の収量となる。
- ・ 中生品種では92（3か年の平均）と収量がやや低下するが、穂肥追肥や基肥を増施することで同等の収量確保が可能。
- ・ 晩生品種では93（3か年の平均）と収量が低下する。基肥増施や追肥をしても平均93(R5)であり、対照と同等の収量確保に至らないが、穂肥の量や時期によっては、平均96(R6)となり同等の収量確保が可能。

2 具体的データ

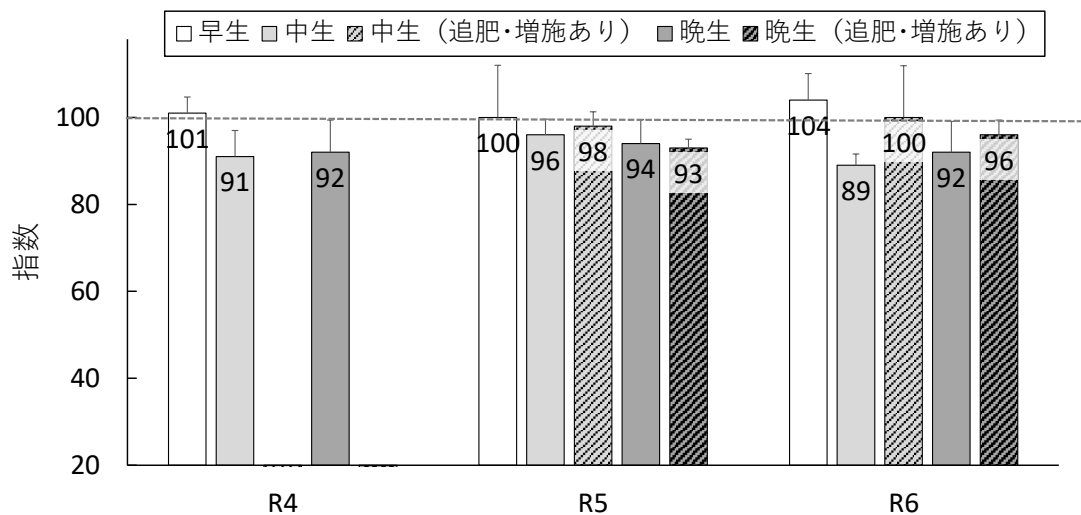


図 実証区の精玄米重
(プラスチック被覆肥料を100とする指数)

表 実証区の精玄米重
(プラスチック被覆肥料を100とする指数)

実証区	R4	R5	R6
早生	101	100	104
中生	91	96	89
中生（基肥増量・追肥あり）	-	98	100
晩生	92	94	92
晩生（基肥増量・追肥あり）	-	93	96

※実証は以下の品種で実施

- ・ 早生（コシヒカリ、あきたこまち、ヒメノモチ等）
- ・ 中生（きぬむすめ、ヒノヒカリ等）
- ・ 晩生（アケボノ）